



中国御庭会会長
原田 治夫氏の横顔

株式会社 山陽グリーン 代表取締役
銀行勤務後 昭和58年にエクステリアスズキを設立
平成8年 法人化 社名変更



原田 治夫氏

インタビュー・中国御庭会会長 原田治夫氏 エクステリアのプロ集団として需要拡大の可能性を探る

私たちが「休眠顧客活性化」に努める時代

他にもれず山口県でも、ここ数年住宅着工が2～3割落ち込み、我々業界もいつになく厳しい局面を迎えています。しかし、この現状を当たり前として捉え、真に新しい切り口を模索する時、必ず販路は開けると確信しています。幸いな事に今、盛んに「ガーデニング」が流行し、一方で地球にやさしい環境問題が取り沙汰されています。「緑化」や「エコロジー」の言葉が定着し、近郊都市では緑化促進に対する優遇補助制度が設けられています。今こそ我々エクステリア業界は、社会における責任と役割、そして誇りを自ら再認識し、専門家集団としての主役になる時代を築く必要があると考えます。建物を一歩出れば、周りは全てエクステリアの世界です。造成・解体から造園・植栽・外構工事、メンテナンスやオペレーション…そこには無限の可能性が広がります。ハウスメーカーが安心を買う総合デパートなら我々はエクステリアの専門小売店です。お客様に来てもらうには、まず何を専門に売り何ができるのかを知っていただき、適正価格表示と安全性・高品質商品提供で地域住民の信頼を築く事が重

要です…小売店はエンドユーザーにもっとも近いところにいるのですから。今こそ「休眠顧客活性化」の時です。

お客様に様々なカタチで情報を提供する

明るい材料が少ない昨今、人々は安らぎを求め、いつになく街には色とりどりの花や緑を目にするようになりました。欧米のガーデニングブームにはじまりオープン外構が人気を呼んでいます。しかし、現状は欧米そのものでは無理があり、日本の自然や文化に合った独自のオープンスタイルが求められているのではないのでしょうか。植栽の変化や隣地、道路との高低差、そして施主の年齢層やライフスタイル等様々な要素をいろんな角度から考える必要があります。一般に若い施主はオープンスタイルを採用しがちですが、「やはり囲いがほしい」という願望もまだ根強くあります。また、人にやさしいバリアフリーをエクステリアに取り入れる事も重要な要素です。蹴上を小さく踏面を大きくし、手摺りや床仕上げを工夫するといった具合です。環境価値創造の見地から広めたい分野ですが、具体的な模擬体験をしていただく展示場やパンフレットによる地域へのアピールが必要です。

連携と情報力でユーザーの心を捉える御庭会活動を

「御庭番」はプレゼンテーションの流れが理解しやすく、初心者にも操作が簡単で、お客さまとのトラブルも回避できて大変有効に活用しています。しかし手描きベースにみるやわらかな線や風合い、彩色の面でまだ改良点があると考えます。御庭会ではメーカーとの連携協力での利用方法、技術・デザインについての勉強会や各種講習会、情報交換会等を積極的に展開していきたいと考えています。すでに山口県エクステリア協会ではPRパンフレットを共同で制作しましたが、御庭会でもエンドユーザー啓蒙のためのホームページやプラン集等を共同でつくりたいですね。それには、より多くの情報量と蓄積データが必要になります。EX・VIEWの充実も販促に利用できると期待しています。より多くの情報を収集するには、会員が増えないといけません。メーカーとのネットワークで、業界に先駆けて情報環境を整備し、付加価値を高め、魅力ある会にしていきたいですね。

(株) 山陽グリーン様 WORK-1



WORK-2



WORK-3



INDEX

■ インタビュー／株式会社 山陽グリーン 原田 治夫氏	1
■ 設計レポート／有限会社 ヤスダ建硝	2
■ 設計レポート／セキスイエクステリア株式会社	3
■ 設計レポート／室井総建株式会社	5
■ '98年秋 注目の新商品	6
■ 御庭会通信	表4